

## 基本方針

### 1 施設整備の基本方針

ごみの処理については、市民生活に欠くことのできない事業であり、ごみ処理施設は安全・安心を最優先に考慮したものとすることが重要です。

また、循環型社会形成に寄与し、多面的価値を有し、市民に親しまれ、地域に貢献する場としての施設整備に取り組み、経済性の観点にも配慮する必要があります。

これらを踏まえつつ、基本方針については、基本構想において設定した以下の目標及び方向性を踏襲することとします。(基本構想で想定した多面的価値の創出【イメージ】を下記に示します。)

なお、社会情勢等の変化に応じて、適宜、必要な見直しを行うこととします。

### 目標1 地球温暖化対策

**方向性：焼却エネルギー等の利活用や省エネルギー化により、脱炭素に貢献する施設**

- ・ごみの減量化推進に伴うごみ量の最小化とともに、焼却効率とエネルギー変換効率の最大化により、脱炭素に貢献する施設とします。

### 目標2 循環型社会の形成

**方向性：持続可能な社会の実現に寄与し、社会情勢の変化にも対応可能な施設**

- ・ごみの処理について、適正な循環的利用（再使用、再生利用、熱回収）に資する施設とします。
- ・単なるごみを処理する施設ではなく、持続可能な社会の実現や地域貢献が図られる施設とします。
- ・社会情勢の変化に対し、柔軟に対応可能な施設とします。
- ・緑化推進により、施設内のカーボンニュートラルに資する施設とします。

### 目標3 環境保全

**方向性：環境に接し、環境を学び、環境を考える、市民に親しまれ環境の保全に配慮した施設**

- ・環境保全に配慮し、十分な公害対策を講じた施設とします。
- ・環境等に関する様々な取り組みについて、情報発信・体験が行え、市民の意識向上に資する本市の拠点施設とします。

## 2 多面的価値の創出

基本構想における多面的価値の創出【イメージ】は以下のとおりです。

なお、施設整備における多面的価値の創出については、今後、検討を進めて行くこととします。

ごみ焼却施設・ 資源化施設	焼却エネルギーを発電や温水に利用、環境学習、資源ごみ持ち寄りステーション、環境にやさしい素材とユニバーサルデザイン、建物意匠工夫による周辺景観との調和、壁面緑化、緑化拠点(市民参画)、太陽光発電施設 等
その他 (付帯設備等)	市民の憩い・集いのスペース、健康増進機能、屋外(芝生広場)での展示・映像の設備による環境学習、焼却エネルギーの地域還元(電気自動車充電設備)、災害廃棄物の仮置場の確保、防災トイレ 等

施設整備の方向性の検討まとめ

資料6

目 標	方 向 性
地球温暖化対策	<p><b>“焼却エネルギー等の利活用や省エネルギー化により、脱炭素に貢献する施設”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの減量化推進に伴うごみ量の最小化とともに、焼却効率とエネルギー変換効率の最大化により、脱炭素に貢献する施設とする。</li> </ul>
循環型社会の形成	<p><b>“持続可能な社会の実現に寄与し、社会情勢の変化にも対応可能な施設”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの処理について、適正な循環的利用（再使用、再生利用、熱回収）に資する施設とする。</li> <li>単なるごみを処理する施設ではなく、持続可能な社会の実現や地域貢献が図られる施設とする。</li> <li>社会情勢の変化に対し、柔軟に対応可能な施設とする。</li> <li>緑化推進により、施設内のカーボンニュートラルに資する施設とする。</li> </ul>
環境保全	<p><b>“環境に接し、環境を学び、環境を考える、市民に親しまれ環境の保全に配慮した施設”</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全に配慮し、十分な公害対策を講じた施設とする。</li> <li>環境等に関する様々な取り組みについて、情報発信・体験が行え、市民の意識向上に資する本市の拠点施設とする。</li> </ul>

施設が果たす役割	該当施設		
	焼却施設	資源化施設	その他 (付帯設備等)
<p><b>《安 全 ・ 安 心》</b> 安全・安心に処理を行い、災害に強く、災害ごみも対応できる</p>			
・環境基準順守(周辺住民との公害防止協定に基づく基準値(国基準を上回る値))	○	○	
・ごみを安全かつ安定的に処理し、運転管理を安定的かつ効果的に実施	○	○	
・災害廃棄物仮置場の確保			○
・防災トイレの確保			○
・浸水リスク低減のための電気設備高所配置・防水設備	○	○	○
<p><b>《新 た な 価 値 創 出 (エ ネ ル ギ ー セ ン タ ー 等)》</b> 熱エネルギーの利活用とともに、周辺の住環境に調和した快適な都市空間と高質な景観を備える</p>			
・適正な循環的利用（再使用、再生利用、熱回収）	○	○	
・住宅地に近接した立地を重視(離隔と親和性の確保)	○	○	
・3Rに係る市民・事業者・市との協働		○	
・資源ごみ持ち寄りステーション		○	○
・焼却エネルギーの地域還元(電気自動車充電設備)			○
・市民の憩い・集いのスペース			○
・屋外(芝生広場)での展示・映像の設備による環境学習			○
・健康増進機能			○
・処理センター用地と用地周囲の管理用道路との一体利用による通行空間			○
・焼却エネルギーを発電・温水に利用	○	○	○
・環境学習	○	○	○
・景観への配慮	○	○	○
・建物意匠工夫による周辺景観との調和、壁面緑化、緑化拠点(市民参画)	○	○	○
・環境にやさしい素材とユニバーサルデザイン	○	○	○
<p><b>《経 済 性 ・ 効 率 性》</b> コンパクト化と最新技術の導入を図り、経済性・効率性に優れる</p>			
・ライフサイクルコスト削減	○	○	
・施設のコンパクト化	○	○	
・最新技術の導入（A I 等の技術の活用）	○	○	
・プラスチックに係る情勢への対応	○	○	
・稼働可能年数を踏まえた建物構造	○	○	○
・省エネルギー高効率設備	○	○	○
・太陽光発電施設	○	○	○